

四国の経済を牽引する



総合6次産業都市

四国一の経営耕地面積と四国有数の製造品出荷額等を誇る西条市は、農業と工業のバランスがとれたまち。当市はこれらの強みを活かして、農産物の生産・加工・貯蔵・流通機能の集約化を図り、産（民間企業）・学（高等教育研究機関）・官（行政）・金（金融機関）の連携により地域に根ざした新産業の創出を目指しています。



田植えを終えたばかりの水田と、背後にそびえる西日本最高峰・石鎚山。



サンライズ西条加工センター内



加工・業務用野菜の産地づくり



官民協同プロジェクト開始
「サンライズファーム西条」



消費者ニーズに適応した
販売体制の構築



全国から有識者が参集した
「総合6次産業都市推進会議」



高等教育研究機関と連携した
人材育成

「総合6次産業都市」とは、農林水産業（1次産業）を基盤とし、製造業（2次産業）の強みを付加し、さらには流通・観光（3次産業）にまでつなぐことで都市として新しい産業や雇用を創出し、その効果を四国全体にも波及させていくという西条市独自の構想です。

この構想を実現するために当市では、経団連会員企業や、市内JJAなどと連携し、先進技術を用いた効率的な農業栽培の実現などに取り組む農業法人「サンライズファーム西条」、農産物加工による付加価値向上などに取り組む四国最大級のカット野菜工場「サンライズ西条加工センター」が設立され、地元農産品を活用した加工品の製造がスタートしました。引き続き、貯蔵施設の整備や流通機能の強化を図ります。

また、構想のスケールアップを目指すため、全国トップクラスの有識者と総合6次産業都市の実現に向けた地域課題の解決策を話し合う「総合6次産業都市推進会議」を開催したり、大学など高等教育研究機関と連携した高度専門人材育成の拠点づくりに取り組んでいます。

こうした先進的な取り組みが評価され、平成27年1月には政府が推進する地方創生のモデル事業の位置づけとなる改正地域再生法に基づく「地域再生計画」の第1号の認定を四国で唯一受けました。

この追い風を受け、地方創生のトッランナーとして地域経済を牽引していきます。



「地域再生計画」認定書

As Saijo City boasts the greatest area of "farmland under management" and one of the largest output of manufactured goods in the Shikoku region, it has a good balance of agricultural and industrial businesses. Taking advantage of this strength, the city is working to create a new community-based industry by integrating the production, processing, storage, and distribution of agricultural products, and through promoting cooperation among private businesses, academic research institutions, public administration, and financial agencies.